

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	家族社会学	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	月曜1限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的 ※	<p>少子高齢化が進むなかで、現代日本の家族はさまざまな問題に直面している。本講義のねらいは、現代日本の家族および家族をとりまく社会状況について理解を深めるところにある。</p>		
到達目標	<p>家族社会学における基礎概念や主要理論を理解することができる。統計資料等を根拠に家族の現状や変化を分析することができる。グローバル化する社会のなかで多様な価値観に支えられた家族の存在を認識し、彼らが直面している課題と支援について考えることができる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>家族に関する基礎概念や主要理論について解説するほか、未婚化、少子化、核家族化、小家族化、子ども虐待、高齢者介護といったトピックスを取り上げながら、家族の現状と家族が直面している諸問題を戦後の社会構造の変化や社会のグローバル化等と結びつけて考察していく。</p> <p>基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法（ペアワーク、ディスカッション等）の手法を活用する。</p>		
評価方法 ※	事前事後学習課題および授業内試験の成績で判断する。		
評価基準	事前学習・事後学習課題30点、授業内試験70点、合計100点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習を欠かさないこと。		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名※	コンピュータグラフィックス基礎	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・1限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン
学修分野			
授業目的※	可視化技術やメディア産業などで使われるコンピュータグラフィックス技法の基本的な考え方および、生成手法と表現方法について講義を行う。また、2DCGおよび3DCGの概要を解説し、2DCGおよび3DCGの基本的な開発技術を学習する。CGは、GIMP(2DCG)およびPOV-Ray(3DCG)を用いて作成を行う。		
到達目標	メディア分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を学ぶ。 また、2DCGおよび3DCGの概要を理解し、基本的な2DCGおよび3DCGの作成技術を習得し、高度かつ専門的なICTの知識及び技術を身につける。		
授業内容	01 ガイダンス、2DCGと3DCGの例と違い 初回ガイダンスのみ合同で実施する。 02 (2DCG) 2DCGの画像情報と視覚表現 03 (2DCG) 画面構成と黄金比・色彩・色と光の三原色 04 (2DCG) 画像情報の扱い・画像の加工とデザイン 05 (2DCG) 2DCGの設計と表現 06 (2DCG) 様々な2DCGアニメーション表現 07 (2DCG) アニメーションの設計と表現の基礎 08 (2DCG) アニメーションの設計と表現の応用 09 (3DCG) 3DCGの概要、POV-Rayの基本操作 10 (3DCG) 座標系、シーンファイルの構成、基本図形 11 (3DCG) 彩色、光源と陰影 12 (3DCG) 座標変換（移動・回転・縮小拡大） 13 (3DCG) マッピング、立体演算 14 (3DCG) 作品制作 15 (3DCG) 作品評価		
授業形態※	オンライン（Zoom）で実施します。 ZoomのURLについては本学シラバスをご確認ください。		
評価方法※	2DCG課題、3DCG課題		
評価基準	2DCG課題50%、3DCG課題50%		
テキスト	松下孝太郎，山本光，柳川和徳，鈴木一史，星和磨，羽入敏樹 共著 “POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作”，講談社，2017年，ISBN: 978-4-06-153827-6 (2,400円+税)		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済、国際、教育学部
科目名 ※	数学Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜 1限
キャンパス ※	稲毛キャンパス	教室 ※	後日指定
学修分野			
授業目的 ※	経済学を習得するために必要な「関数」と「微分」の知識を身につける。		
到達目標	「関数」の定義と「微分」の意味を人に説明できるようになり、さらに、それらを経済学へ応用できるようにする。		
授業内容	るい乗関数と多項式、逆数、ルート、微分、接線の式と最適化、二変数関数とその微分、不定積分、定積分、対数関数、指数関数、三角関数		
授業形態 ※	授業は対面形式で、前半に講義し、後半に演習を行う。演習はmoodleで実施する。		
評価方法 ※	演習、試験2回 中間試験と期末試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	演習50% (小テスト3%×10回, 演習6.7%×3回) 試験50% (中間試験25%, 期末試験25%)		
テキスト	テキストは授業内で指示します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	西洋経済史 II	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月-2
キャンパス ※		教室 ※	208
学修分野			
授業目的 ※	<p>前期の「西洋経済史I」を踏まえ、18世紀後半の産業革命から20世紀前半の後発工業化に至るグローバル経済史を概観します。グローバル経済史ではR・C・アレンの『世界史の中の産業革命』が発表されて以来現在まで、「なぜイギリスが最初に工業化を遂げたのか」が問題となっています。この著書をもとにしながら、「工業化はなぜ起きるのか」をめぐる経済史の様々な理論を学びます。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識・技能) (思考力・判断力・表現力)】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では経済史が背景としている経済学的な捉え方についてポイントをおさえ、歴史的事例を利用して説明できるようにします。レジュメ(A4一枚の「講義ノート」と呼びます)での穴埋めをすることがテスト勉強として最低限必要ですので、各回の授業で解説された内容をきちんと書きうつし、自分の講義ノートを整理する習慣を身につけます。 ・期末テスト時には、グローバル経済史の議論・用語の定義を踏まえながらグラフが示す人口・農業生産・イノベーションなどの動向を適切に読み取れるようにします。 		
授業内容	<p>第1回 世界史の中の産業革命ー逆転の時代</p> <p>第2回 産業革命の諸要因ー農業社会から産業社会へ</p> <p>第3回 産業革命を計測せよー地域の特性を理解する</p> <p>第4回 実験するヨーマンー農業革命と消費革命</p> <p>第5回 プロト工業化の時代ー「われら失いし世界」</p> <p>第6回 低価格エネルギー経済</p> <p>第7回 イギリスの産業革命ーなぜそれはフランスではなかったのか</p> <p>第8回 市場・国家・技術移転ー神の見えざる手・国家の見える手</p> <p>第9回 小さなマクロな発明ーコークス溶鉱法</p> <p>第10回 大陸ヨーロッパ国境地域の工業化ー地域の固有性？</p> <p>第11回 19世紀の人口成長ー後発工業化の諸要因</p> <p>第12回 インヴィジブル・ウェポン</p> <p>第13回 東アジアの奇跡ー大分岐のもう一つの道</p> <p>第14回 労働集約型工業化ー工場制度は正解なのか？</p> <p>第15回 アフリカの労働集約型工業化ーインセンティブと低賃金のあいだ</p>		

授業形態※	対面
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間・期末でオンラインでのレポート試験を実施します。 テスト結果はForm機能を使って返却し、必要に応じて授業内で解説します。また正答はLMSに掲載されるので、自己採点をしてください。 ・ 授業後課題の小テストの正答は、毎回授業開始後10分間を使って解説します。 ・ 毎回授業後課題点（6点×10回＝60%）＋中間テスト（20%）＋期末テスト(20%)の総合点。
評価基準	
テキスト	授業スライドにもとづいているので、とくになし。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能なら【西洋経済史Ⅰ】と連続して受講することが望ましいです。 ・ 配布されるノートに授業中指示された用語の書き込みをしていないとテスト準備ができません。 ・ 小テストを必ず提出すること。「8割出した」では合格はむずかしい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	公共経済学 II	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月-2
キャンパス ※		教室 ※	307
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義は公共経済学の基本的な知識を習得することを目的とする。一定の理想的な条件を満たす経済において、競争市場が最適な資源配分を達成することを理解し、その上で、競争市場においても最適な資源配分が達成しない場合（市場の失敗）に政府がどのような政策を行うべきかを学ぶ。加えて、所得再分配の観点からの政府の政策について学ぶ。また、地方公務員試験等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験の過去問をとりあげながら、公共経済学の基礎理論を学んでいく。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>公共経済学に関する基礎力を身につけ、市場の失敗や所得再分配など、公共政策が直面する課題を理論的に理解し、論理的な視点でそれらの問題の解決方法を理解すること。加えて、現実の制度やルールを理解した上で、その制度（ルール）の含意を論理的に読みとり最適な行動をとることや適切な分析ができるようになること。</p>		
授業内容	<p>第1回 ガイダンス（講義の内容と進め方）と公共経済学Ⅰの復習 第2回 公共財の理論①（公共財の問題点など） 第3回 公共財の理論②（公共財の問題に対する解決方法など） 第4回 独占と価格規制①（独占の問題点など） 第5回 独占と価格規制②（独占に対する規制など） 第6回 ゲーム理論の基礎①（ゲーム理論とナッシュ均衡など） 第7回 ゲーム理論の基礎②（混合戦略など） 第8回 ゲーム理論の基礎③（逐次手番ゲームなど） 第9回 複占市場の理論①（複占の問題点など） 第10回 複占市場の理論②（複占市場の理論） 第11回 所得分配の理論①（公平の概念と基礎的尺度） 第12回 所得分配の理論②（ローレンツ曲線とジニ係数、相対的貧困と絶対的貧困） 第13回 情報の経済学①（リスクと期待効用） 第14回 情報の経済学②（モラルハザードと逆選択） 第15回 市場の失敗と所得分配政策の総括</p> <p>※講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合があります。また、公共経済学Ⅰで扱えなかった学習内容がある場合に、公共経済学Ⅱでは公共経済学Ⅰの学習内容の続きから授業を行う。</p>		

授業形態※	対面
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（持ち込み不可）の成績100%によって評価する。 ・ 講義で扱った問題については、講義内で問題解説をするなどのフィードバックを履修者に行う。
評価基準	
テキスト	指定なし（資料を配布する）
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の詳細や教科書・参考書、予復習の方法については、初回ガイダンスにて説明を行う。 ・ ミクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。 ・ 財政学Ⅰ・Ⅱと公共経済学Ⅰを履修していることが望ましい。あるいは、財政学Ⅰと公共財Ⅰを履修し、財政学Ⅱと同時履修することが望ましい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名※	社会学概論	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1号館4階401
学修分野			
授業目的※	本講義は社会学の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。前半は、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。特に代表的な学説は、公務員試験他、社会学を受験科目としているような諸試験の基礎準備となる水準で講義する。後半は、具体的な社会問題の考察を行う。		
到達目標	現代社会理解のための基礎知識の構築		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 2.社会学の萌芽（コント・スペンサー） 3.初期社会学の学説1（デュルケム） 4.初期社会学の学説2（ウェーバー） 5.初期社会学の学説3（ジンメル・テンニース） 6.社会的人間発達（クーリー・ミード） 7.中間試験および解説 8.シカゴ学派1（トマス・パーク） 9.シカゴ学派2（バージェス・ワース） 10.構造機能主義（パーソンズ） 11.構造機能主義（マートン） 12.現代社会論1（家族論） 13.現代社会論2（逸脱行為論） 14.現代社会論3（大衆社会論） 15.まとめ 		
授業形態※	講義形式で行う。		
評価方法※	小テスト、平常試験		
評価基準	小テスト（講義内容の理解度）40% 平常試験（全体を通じた講義内容の理解度）60%		
テキスト	使用しない		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名※	子どもと造形	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜 2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日通知
学修分野			
授業目的※	乳幼児期の子どもの育ちや保育の「要領」「指針」、実践等に基づきながら、本授業では造形表現の作品製作(実技)を行う。		
到達目標	幼児教育・保育における造形表現に関する基本的な知識や技術(技能)、配慮事項等を体験的に理解し、遊びを通じた保育の実践力を身につけることを目標とする。		
授業内容	新聞紙で遊ぶ、スクリブル/クレヨン遊び、スクリブル/絵具遊び・ぬたくり、粘土遊び、オーナメント、のり付け遊び・コラージュ、製作・工作/手作りおもちゃ、紙版画、人物画/描画、ポップアップカードの製作、絵本とお話の絵・壁面構成、図鑑の活用と造形表現の探究		
授業形態※	保育実践や保育の「要領」「指針」、子どもの発達段階に基づきながら、作品製作(実技)を中心に授業を行う。		
評価方法※	本授業では「作品製作(実技)の過程」等を重視して総合的に評価する。		
評価基準	「提出物(作品、レポート類、等)」100%を基本とする。		
テキスト	原則として授業等で説明後、「教材・画材」を受講者が別途購入する。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名※	障害インクルージョン	単位数 ※	講義 2単位
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・6時限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2. 虐待の実態や差別の取り組みを学ぶ。 3. 地域共生社会や障害者文化芸術の新しい潮流を知る。 		
授業内容 授業形態※	<p>第1回 ガイダンス（授業計画の説明、講師の自己紹介） 講義「君たちはどんな時代を生きていくのか、何を学ぶのか」（目標1）</p> <p>第2回 前回のリアクションペーパーの紹介 頭を柔らかくする小テスト①（障害児の世界を知る） 講義「障害者のリアルに迫る」（目標1）</p> <p>第3回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ&A 頭を柔らかくするテスト② 講義「障害者虐待」（目標2）</p> <p>第4回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ&A 頭をやわらかくするテスト③ 講義「あなたは虐待する？」（目標2）</p> <p>第5回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト④ 講義「虐待をしないためには何が必要か」（目標2）</p> <p>第6回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑤ 講義「行動障害と身体拘束」（目標2）</p> <p>第7回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑥ 講義「行動障害の改善」（目標2）</p> <p>第8回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑦ 講義「利用者中心の支援」（目標1）</p> <p>第9回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「障害者が登場する映画やドラマ」（目標3）</p> <p>第10回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「警察プロジェクト」（目標3）</p> <p>第11回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標2)</p> <p>第12回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「発達障害と事件」（目標1, 2）</p> <p>第13回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「アール・ブリュット」（目標3）</p> <p>第14回 前回のリアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「意思決定支援」（目標1）</p> <p>第15回 地域共生型福祉と障害(目標3)</p>		

評価方法※	期末レポート15%，授業ごとのリアクションペーパー70%，授業への取り組み15%，など。
評価基準	1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性を理解できたか。 2. 虐待の実態や差別解消の取り組みを理解できたか。 3. 地域共生、障害者文化芸術の新しい潮流を知ることができたか。
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	授業中の私語（おしゃべり）など周囲の迷惑になることは厳禁。おしゃべりする人は履修しないでください。 外部からゲスト講師を招いて「障害者のリアルに迫る」をやる場合はシラバス内容が少し変更します。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名※	映画で学ぶ英語表現		単位数 ※ 1
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・3時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	401
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられています。		
授業目的※	映画を通じて日常的な英語の表現を習得し、リスニング能力の向上を目指します。英語の母国語話者が用いる「英語」と今まで学校で学んできた知識との接点を確認していきます。		
到達目標	①映画を理解するために必要な語句・構文に慣れること。 ②リスニングを通じて英語の音声に慣れること。		
授業内容 授業形態※	第1回 授業の進め方についてガイダンス 第2回 SOUND OF MUSICその1 第3回 SOUND OF MUSICその2 第4回 SOUND OF MUSICその3 第5回 SOUND OF MUSICその4 第6回 ROMAN HOLIDAYS その1 第7回 ROMAN HOLIDAYS その2 第8回 ROMAN HOLIDAYS その3 第9回 ROMAN HOLIDAYS その4 第10回 TITANIC その1 第11回 TITANIC その2 第12回 TITANIC その3 第13回 TITANIC その4 第14回 発音とイントネーション 第15回 まとめ		
評価方法※	筆記テスト(50%)、授業への積極的な取り組み(50%)を考慮して評価します。		
評価基準			
テキスト	指定なし。授業中に映画のスク립トを配布します。		
注意事項	特になし		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1590&nendo=2024		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名※	経営学概論	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1号館2階201
学修分野			
授業目的※	経営学の基本的な理論フレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学の中心的な構成分野である経営戦略論と経営組織論における基本的な用語や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えながら解説を加えていく。また、情報社会における経営のあり方と、その理解に必要な着眼点や分析力も併せて説明する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営学における基本的な用語や概念を理解し、情報社会における企業経営にまつわるさまざまな事象を読み解く素養を身につけることができる。 ・ 企業経営に関する分析方法などの総合的な理解に基づいて、それを幅広い場面で活用しようとする姿勢を身につける。 ・ 情報社会の変化に対応するために、自律的に学ぶ姿勢を身につける。また、そのために常に高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習する姿勢を身につける。 ・ 企業を理解するための情報収集方法や分的方法に基づいて、さまざまな企業の状況について調べることができる。 		
授業内容	1 授業ガイダンス：学習のための情報源 2 経営学の内容（1）：企業経営・経営学の全体像 3 経営学の内容（2）：株式会社、雇用制度 4 経営戦略論：成長戦略（1）：多角化 5 経営戦略論：成長戦略（2）：国際化 6 経営戦略論：競争戦略（1）：コストリーダーシップ、差別化 7 経営戦略論：競争戦略（2）：集中化 8 経営組織論：組織構造（1）：職能別組織、事業部制組織 9 経営組織論：組織構造（2）：マトリックス組織、その他の組織構造 10 経営組織論：リーダーシップ 11 経営組織論：組織文化 12 経営組織論：モチベーション 13 情報社会における現代の企業経営（1）：情報技術の役割 14 情報社会における現代の企業経営（2）：情報技術と戦略 15 総合理解：これまでの授業内容のまとめと、理解度評価のための試験		
授業形態※	講義形式を主体とし、テーマに沿った事例に基づくディスカッションを毎回行う。毎回、授業の理解度を測定するための確認テストを行う。		
評価方法※	課題、レポート、平常試験		
評価基準	課題（簡潔な提出物を求めることがある）10% レポート（企業に関するレポートを2回行う）50% 平常試験（授業最終回に試験を行う）40%		

テキスト	「1からの経営学（第3版）」碩学社 ISBN：978-4502375217
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	経営戦略論 II	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月-4
キャンパス ※		教室 ※	2-201
学修分野			
授業目的 ※	<p>『経営戦略論 II』では、マネジメントという現象を生み出していく際に必要とされる「組織として取り組む仕事の未来を大きく深く考える」ための論理（経営戦略の論理）について深く学んでいきます。</p> <p>【未来を考える】ということは目先のことばかりに捉われず常に未来志向であるということです。</p> <p>【大きく考える】ということは独りよがりではいけないということです。顧客や競争相手などの動向にも常に目配せすることが必要です。</p> <p>【深く考える】ということは論理的な思考に基づいて行動するという事です。単なる思いつきで行動してはいけません。</p> <p>つまり、目先のことしか考えず、自分のことしか考えず、思いつきでしか動かないという人は、経営者（マネジメントの実践者）にはなれないということです。</p> <p>そこで本科目では、企業組織の事例を中心に、企業を取り巻く顧客や競争相手といった利害関係者と相互作用しながら展開される経営戦略の論理を具体的に学んでいきます。</p> <p>とりわけこの『経営戦略論 II』では、『経営戦略論 I』における議論を十分にふまえながら、近年注目されているオープンイノベーションに関する戦略を中心に戦略の実行や変革に関わる問題についても検討していきます。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>本科目では業種や職種を問わずビジネスパーソンに必須の戦略的思考を身につけた人材を目指す学生を対象とし、次の2点が到達目標となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の経営戦略論が注目している組織を取り巻く多様なステークホルダーとの相互作用に関する論理について理解し、説明できる。 ・「仕事の未来を大きく深く考える」という戦略的な思考スタイルを身につける。 		

授業内容	<p>毎回の講義はPowerPointを使用しながら進行していきます。DVD教材や新聞・雑誌記事を利用して具体的な事実に基づきながら理解を深めていきます。授業の最後にリアクションペーパーを提出します。</p> <p>第1回 経営戦略を学ぶ意義 授業の進め方、授業スケジュール 第2回 外部化戦略とは 外部化戦略の種類 第3回 外部化戦略の基本的視点 資源依存、取引コスト、学習 第4回 アウトソーシング戦略 メイク・オア・バイの意思決定 第5回 M & A 戦略 プレM & A、ポストM & A 第6回 サプライチェーン・マネジメント バリュー・チェーン分析 第7回 業界標準をめぐる戦略 ネットワーク外部性 第8回 フランチャイズ戦略 フランチャイズ・マネジメント 第9回 製品アーキテクチャ戦略 第10回 戦略的グループ経営 第11回 中小企業の戦略 柔道ストラテジー、中小企業ネットワーク 第12回 戦略の実行 戦略を策定する人、戦略を実行する人 第13回 戦略の変革 撤退戦略、事業再構築 第14回 戦略をめぐる決断 仮説としての経営戦略、非線形的な統合力 第15回 経営戦略の未来</p>
授業形態※	対面
評価方法※	<p>定期試験50%、レポート・課題25%、授業の各回で実施されるリアクションペーパーの提出による評価25%（合計100%）</p> <p>レポート・課題は教科書より課題を設定する。</p> <p>提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックは次回授業冒頭に行われる前回の振り返りの時間に行っていく。</p>
評価基準	
テキスト	浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣，2010.
注意事項	<p>遅刻・私語厳禁。</p> <p>『経営戦略論Ⅰ』の履修を前提とする。『マネジメント概論』等、他の経営関係科目と本科目との結びつきについて自分なりに考え、自分の身近な問題に当てはめ、行動（実践）に移していくことが望ましい。</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名※	ホスピタリティサービス	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・4時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	204
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられます。		
授業目的※	<p>サービス産業が拡大する中で、顧客満足度により企業業績を上げることができるホスピタリティビジネスの重要性が高まっています。ホスピタリティの基本スキルを磨き、ホスピタリティマインドを高めることを学びます。</p> <p>インバウンド効果を高める日本の「おもてなし」の推進をいろいろな関係者が取り組んでいます。「サービス」と「ホスピタリティ」の違いはどこにあるのか考えましょう。</p> <p>観光振興や国際会議誘致などの担当教員の実務経験を活かして、ホスピタリティマネジメントの事例を紹介しますので、その効果についての理解が深まります。</p> <p>サービス産業従事者（ホテル関係者など）からのホスピタリティマインド実践についての講義を聞くことも予定しています。</p>		
到達目標	<p>①ホスピタリティが何かを理解する。</p> <p>②基本マナーの習得を目指す。</p> <p>③ホスピタリティマインドを高める。</p> <p>④サービス接客検定2級の取得を目指す。（2月受験）</p>		
授業内容 授業形態※	<p>以下の内容で進める予定です。必要に応じて実習を行います。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 なぜ、ホスピタリティなのか</p> <p>第3回 ホスピタリティ・マネジメント（1）</p> <p>第4回 ホスピタリティ・マネジメント（2）</p> <p>第5回 ホスピタリティマインド（1）（ゲストスピーカー）</p> <p>第6回 ホスピタリティ実践の基本</p> <p>第7回 基本マナー（1）</p> <p>第8回 基本マナー（2）</p> <p>第9回 ホスピタリティマインド（2）（ゲストスピーカー）</p> <p>第10回 気配り（1）</p> <p>第11回 気配り（2）</p> <p>第12回 心配り</p> <p>第13回 ケーススタディ（1）</p> <p>第14回 ケーススタディ（2）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることがあります。</p>		
評価方法※	レポート（40%）、テスト（40%）、授業への能動性（20%）を総合的に評価します。		

評価基準	
テキスト	授業時に資料などを配布します。
注意事項	ホスピタリティマインドを持って、臨機応変に対応できる力を高めるよう積極的に取り組んでください。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1910&nendo=2024

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	ボランティア・市民活動論 B	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	月曜5限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	2-302
学修分野			
授業目的※	ボランティアに関する基本知識を身につけること、また、実践をとおしてボランティアについて体験的に理解することを目的とする。		
到達目標	<p>①ボランティアに関する基本的な知識を身につける。</p> <p>②ボランティアの意義と今日的課題を理解する。</p> <p>③ボランティアを実践する基礎力を養う。</p>		
授業内容	<p>ボランティアとは何だろうか。講義をとおしてその歴史、活動分野や種類、関連する制度について基本的な知識を身につけるとともに、実践をとおしてその意義と今日的課題を体験的に学ぶ。</p> <p>なお、本科目は、ちば産学官連携プラットフォームの共同開発科目として、同プラットフォーム参加大学・短期大学と共同で展開される科目である。</p> <p>各大学・短期大学の取り組みを相互に学ぶと共に、千葉市内外におけるボランティア活動に共同で取り組み、体験的に学ぶものである。</p>		
授業形態※	講義、ボランティア実践の計画立案、実践および報告を組み合わせる授業を展開する。		
評価方法※	事前事後課題の提出状況及び内容に関する評価、ボランティア実践報告、ボランティア実践レポートで評価する。		
評価基準	<p>事前事後課題の提出状況及び内容に対する評価 30点</p> <p>ボランティア実践報告 10点</p> <p>ボランティア実践レポート 60点</p>		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	とくになし		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	スポーツマネジメント	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	月曜5限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	10-202
学修分野			
授業目的※	本授業の目的は、Jリーグクラブの事例を中心に、スポーツビジネスの仕組みを理解し、これからのスポーツの在り方、スポーツクラブと地域の関係について考察することで、スポーツマネジメントに関する知識や考え方を習得することである。		
到達目標	<p>①スポーツの本来的意義、スポーツの在り方について、自分自身の意見を持ち、論理的に、他者に説明することができる。</p> <p>②スポーツマネジメントに関する基本的な知識を理解しており、論理的に、他者に説明することができる。</p>		
授業内容	<p>スポーツの生み出す価値は、楽しさ、健康、エンターテインメントの提供にとどまらず、様々な分野と結びつき、人々の生活を豊かにし、地域の価値を向上させる重要なツールの1つとして期待されるようになってきている。本講義においては、Jリーグクラブの事例を中心に、スポーツを事業として展開する組織の活動を、組織構造や環境、消費者行動、マーケティング、地域連携といった様々な視点から解説し、学生と一緒に考えていくとともに、学生の関心、興味に応じて、Jクラブ、国際大会を経験してきた講師の知見を伝えていく。</p> <p>講義では、該当回の講義内容を60分程度、解説する。残りの30分程度で、授業内容について学生相互で振り返りを行う。</p>		
授業形態※	<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。</p> <p>詳細は以下のURLをご参照ください。</p> <p>https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2024jitsumukyoin.pdf (【千葉キャンパス】2024年度 実務経験のある教員一覧)</p>		
評価方法※	事前事後学習の成果、中間・最終レポートの成果で総合評価する。		
評価基準	事前事後学習を含む毎回の課題の成果：30点 中間レポート：30点		
テキスト	この科目では特定の教科書を指定しない。授業内で使用する資料等については、別途授業内で案内する。		
注意事項	特になし		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	こども学科
科目名 ※	文学		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	月曜・5時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の一般教養科目に位置づけられている。		
授業目的 ※	<p>平安時代に成立した物語作品『源氏物語』を取り上げる。作品の講読（原文だけではなく現代語訳を積極的に活用していく）を行いながら、『源氏物語』について様々な側面から検討していく。さらに、『源氏物語』がいかなる作品なのかということを通じて把握する中で、古典とは何か、古典を学ぶ意義はどこにあるのかといった大きなテーマについても考える機会を提供したい。</p> <p>また、対人援助職従事者に必要とされる他者の立場から物事を考える姿勢を身につけるために、自己の物事のとらえ方が自己中心的なものになりがちであるということへの気づきも授業を通じて促したい。</p>		
到達目標	<p>①日本古典文学の流れについて理解し、説明することができる。</p> <p>②成立背景、作者、構造、形式、内容、時代背景、享受等の各点から『源氏物語』の概要や周辺事項について理解し、説明することができる。</p> <p>③多様な視点から物事をとらえ、考察し、それを表現することができる。</p>		
授業内容	<p>第1回 オリエンテーション、イントロダクション</p> <p>第2回 日本文学史概説</p> <p>第3回 紫式部についての概説</p> <p>第4回 『源氏物語』についての概説</p> <p>第5回 『源氏物語』第一部を読む① 冒頭文の解釈</p> <p>第6回 『源氏物語』第一部を読む② 光源氏の誕生</p> <p>第7回 『源氏物語』第一部を読む③ 桐壺巻の観相</p> <p>第8回 『源氏物語』第一部を読む④ 若紫巻の密通事件</p> <p>第9回 『源氏物語』第一部を読む⑤ 平安時代の恋</p> <p>第10回 『源氏物語』第一部を読む⑥ 准太政天皇に至るまでの経緯</p> <p>第11回 『源氏物語』の享受① 戦前の『源氏物語』劇の上演差し止め事件</p> <p>第12回 『源氏物語』の享受② 戦前の『源氏物語』教材の実態</p> <p>第13回 『源氏物語』の享受③ 『国宝源氏物語絵巻』</p> <p>第14回 『源氏物語』の享受④ 『源氏物語』をめぐる多様な評価</p> <p>第15回 古典とは何か、文学作品を読むとはどのようなことか</p>		
評価方法 ※	授業内レポート（45%）と期末レポート（50%）を主たる評価材料とする。加えて、自主的な課題提出（自由レポート等/5%）も認める。		
評価基準			
テキスト	<p>指定なし。</p> <p>※『源氏物語』の本文・現代語訳については授業時に配付するプリントを用いる。</p>		

注意事項	作品の概要がおさえられていると、より理解が深まると考えられるので、源氏物語本文のプリントについてはできるだけ早めに各自で読み進めておくことよい。 なお、プリントについては古語による本文とあわせて現代語訳を付したものを選定している。各自の学習歴や知識に応じて適宜現代語訳を援用しながら読めばよい。授業においても、この点には配慮する。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3000&nendo=2024

※は必須記入事項